

# 公共事業に係る効果等について

## 県営クリーク防災機能保全対策事業 久保田西地区

(農林水産部 農山漁村課)

### 事業の目的

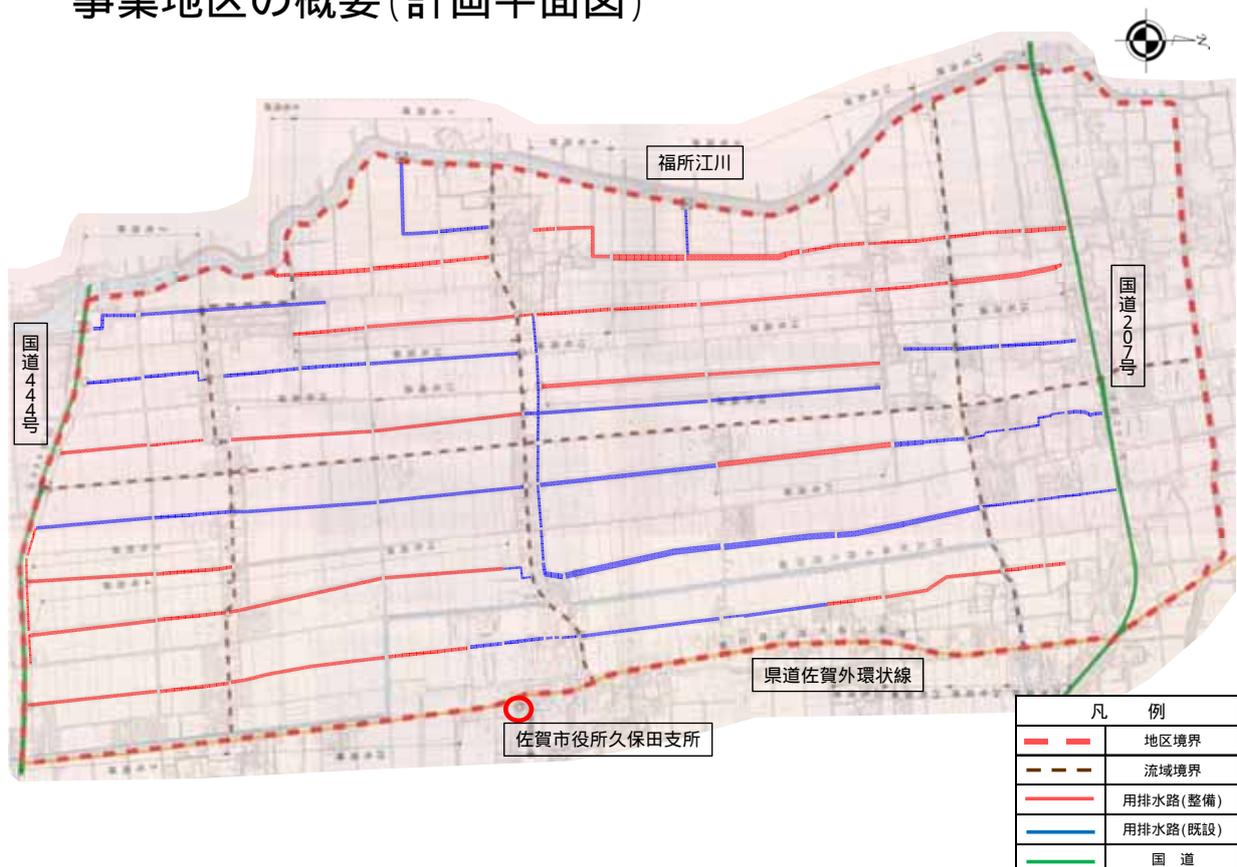
- ・ クリークは、農業用水の貯留や送水機能のほか、洪水時には降雨を一時的に貯留し、地域を洪水から守る**防災機能**などの多面的機能を有している。
- ・ クリークの多くは土水路のままであることから、経年変化や水位変動によりクリーク法面の崩壊が進行し、貯水・送水機能が低下した。これにより湛水被害が増加するとともに、隣接する農地の営農や、道路の安全通行に支障が生じてきた。  
(**機能低下による危険性の高まり**)
- ・ このため、クリークの法面整備を行い、クリークの機能を回復させることで湛水被害を解消させ、隣接する農地や道路を保全するとともに、地域住民及び農家の安心・安全の確保を図ることとしている。  
(**機能回復による安全性の確保**)

## 事業地区の概要

- ・事業名: 県営クリーク防災機能保全対策事業
- ・地区名: 久保田西地区
- ・所在地: 佐賀市久保田町
- ・工期: 平成14年度～平成21年度
- ・事業費: 1,514,100千円
- ・受益面積: 443ha
- ・受益者数: 260名
- ・事業内容:
  - ・クリーク法面の護岸工  
L=11,693m
  - ・クリーク内堆積土の浚渫



## 事業地区の概要(計画平面図)



## 事業実施前の状況(機能の低下)

経年変化や水位変動により、法面が浸食され、崩壊が発生している。また水路内への土砂の堆積が進行している。

法面の浸食状況



泥土の堆積状況 堆積厚:約1.0m



法面の崩壊状況



法面崩壊等による道路への影響



## 事業実施前の状況(湛水被害の増加)

(H11.6.29撮影 時間最大雨量59mm/h)



(H11.6.29撮影 時間最大雨量59mm/h)



(H8.6.20撮影 総雨量191.5mm、時間最大雨量36.5mm/h)



クリークを持つ降雨の一時貯留機能、排水能力が低下し、大雨により農地や道路が湛水し被害が発生。

事業実施前での湛水面積

A=100.0ha

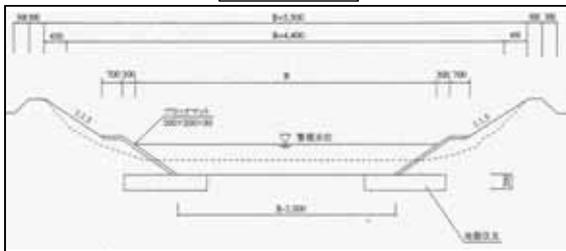
## 事業実施の状況

水路の幅が広い水路(概ね上幅12m以上)についてはブロックマット工法により、また、狭い水路についてはコンクリート柵渠工法により護岸整備を実施した。

(ブロックマット工法)



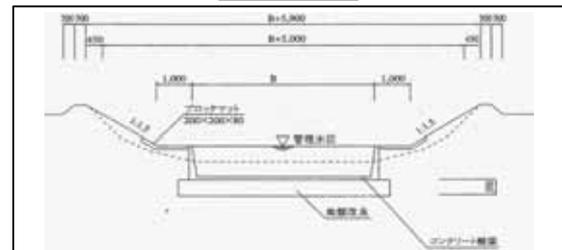
標準断面図



(コンクリート柵渠工法)



標準断面図



## 事業実施の状況(環境への配慮)

ブロックマット工法により整備した水路に捨石を設置し、水棲生物の生息・生育環境を保護するなど生態系の保全を図った。事業完了後もフナ、コイ等の生息・生育が確認されている。



捨石は両岸50m間隔で設置しており、捨石の規模は概ね長さ3m、高さ1.5mあり、一つの石は50kg内外程度のものを設置した。

## 事業実施による効果

- 法面護岸が整備されたことや水路内の堆積土が撤去されたことで、クリークの持つ降雨の一時貯留機能、排水機能が回復され、これまで湛水被害が生じていた箇所においても、大雨により一時的に湛水はするもののすぐに解消され被害発生までには至らなくなった。

事業実施前後の被害状況

	湛水被害面積 (ha)	農作物被害額 (千円)
整備前	100.0	7,213
整備後	26.1	1,787

- クリーク横の道路は農業用のほか、生活道路として地域住民の通勤通学にも利用されており護岸整備したことにより法面崩壊が防止され、安全な通行が確保されている。
- 事業完了後5年経過時点における費用対効果分析結果(投資効率方式により算定)  
妥当投資額(B) 2,827百万円  
総事業費(C) 1,645百万円  
投資効率(B/C) 1.71

### 事業による波及的効果等

本事業の実施により、農地への湛水被害が解消されるとともに、水位調整が容易となったことから、水田の乾田化が図られ、大豆の安定生産が可能となった。

また、品質についても市場(特に関西地方)から高く評価されている。

大豆の作付状況



## 整備された施設の維持管理状況

本事業により整備された施設は久保田町土地改良区及び農家により適切に維持管理されている。なお、多面的機能支払交付金を活用し、年2回地域住民と一緒にクリーク法面の草刈や水草除去等を行っている。

(多面的機能支払交付金による伐採の取り組み)



(多面的機能支払交付金による水草除去の取り組み)



## 県民の声

- 事業実施後は、大雨による湛水被害は発生していない。一時的に湛水しても水路が整備されたことで排水の流れが良くなり、湛水はすぐに解消され被害までには至らなくなった。
- 稲刈りや大豆の刈取りの際は、クリーク近くでも安心して大型コンバインにより作業ができるようになったし、クリーク沿いの道路も安心して通行できるようになった。
- 湛水が解消され、また水位調整がやり易くなったことで、農地の乾田化が図られ、大豆の安定生産が可能となった。

## (参考)現在の県営クリーク防災機能保全対策事業の実施状況

現在、佐賀県においては、横幹線及び支線的な水路の護岸整備を、木柵工により行っています。護岸に使用する木材は佐賀県産の間伐材を利用しています。

- ・実施地区：12地区
- ・受益面積：約13,270ha
- ・受益農家：約8,500戸
- ・関係市町：佐賀市、神崎市、小城市、上峰町
- ・予定工期：平成24年度～平成35年度
- ・事業量：L=516km
- ・事業費：355億円

縦幹線水路は、国営総合農地防災事業筑後川下流右岸地区(平成24年度～)により整備されています。

